

地域課題・目指す将来像

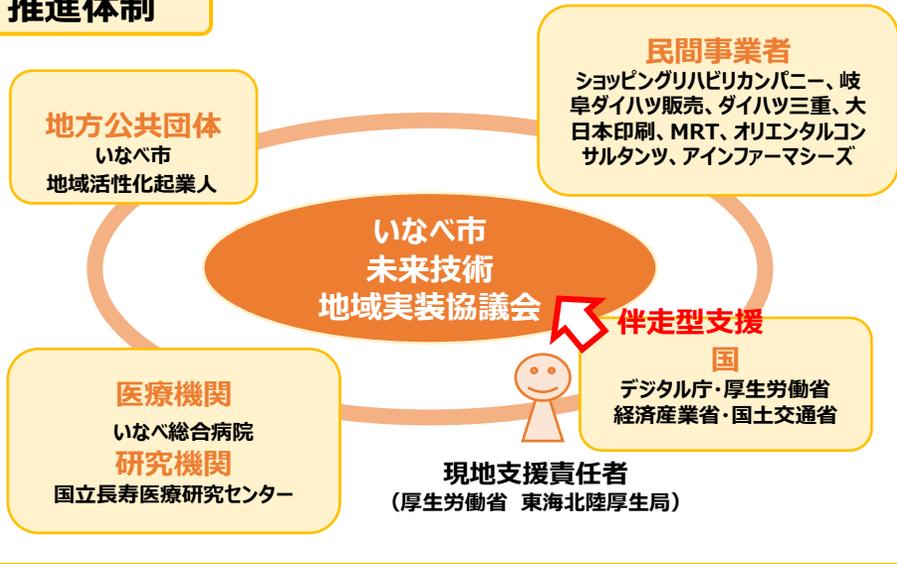
地域課題

- いなべ市では、令和2年度に3人で1人の高齢者を支えている状態だったが、令和12年度には1.8人で1人の高齢者を支えなければならない時代が来ると予想される
- 現状では、高齢者の一人暮らし世帯も多く、デジタルを利用できる環境がないことも多い。高齢者を支える人員が確保できている今、デジタルを活用した高齢者の健康づくりや見守りを推進する必要がある
- 広い市域に集落が点在しており、高齢者の健康や生活を支える移動手段の確保も課題

将来像

- 「通いの場」をキーステーションにIT、IoTを通じた健康づくり、買物、生きがいづくりなど、高齢者デジタルライフを創造

推進体制

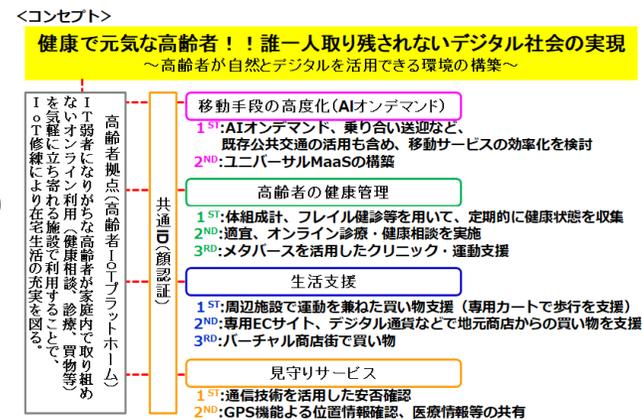


課題解決に向けた取組

実フィールドとデジタルを併用した「健康管理」「生活支援」「移動手段の高度化」「見守りサービス」を提供

⇒誰もが安心して住み続けたいと思える地域をつくり、
高齢者の介護予防による医療費や介護保険給付の抑制も期待

- **高齢者IoTプラットフォーム**
 - ・ デジタル活用講座の実施
 - ・ **顔認証を活用した共通IDシステム**の構築
- **移動手段の高度化**
 - ・ **AIオンデマンドタクシー**や乗り合い送迎による移動手段の効率化
 - ・ **ユニバーサルMaaSの構築**により、高齢者が気軽に利用できる交通手段の確保
- **高齢者の健康管理**
 - ・ 体組成計を活用したPHRの推進、**オンライン診療**
 - ・ **メタバース**を活用したクリニック・運動支援
- **高齢者の生活支援**
 - ・ 運動兼買い物、ECサイト、デジタル通貨
 - ・ **メタバース**を活用したバーチャル商店街で買い物
- **見守りサービス**
 - ・ **通信技術**を活用した安否確認、GPS機能による位置情報確認、医療情報等の共有



(図：いなべ市提供)

2022年度の
主な取組

- ふじわらデイサービスセンター改修基本設計を完了
- ダイハツ三重と連携し、ボランティアドライバーによる送迎支援にシェアカーを活用できるかの実証実験を開始
- 「三重県広域連携スーパーシティ推進協議会」の協力のもと、「オンデマンド医療MaaS」車両見学会いなべを開催
- 令和5年1月より、地域活性化起業人を岐阜ダイハツから派遣いただき、推進体制を強化

取組内容

シェアカー福祉利用実証実験（2022年11月16日～2023年3月31日）

- ▶ いなべ市、株式会社ダイハツ三重、いなべ市社会福祉協議会、ボランティア団体あじさいまごころ隊の連携により、シェアカーの福祉利用の実証実験を実施
- ▶ オレンジ工房あげきにトヨタシェアステーションを開設し、高齢ボランティアによる交通弱者移動支援、いなべ市社協移動、いなべ市公用などの分野で、シェアカーの採算性が確保できるだけの稼働があるかを検証
- ▶ ボランティア輸送の実証実験の概要
 - ・ボランティア団体「あじさいまごころ隊」8名のうち7名の高齢ボランティアドライバー
 - ・ボランティアドライバーが、TOYOTA SHARE アプリでシェアカーを予約し送迎
 - ・通所型サービスB（住民主体）の4会場のうち2会場への利用者送迎
 - ・実証実験中のシェアカー利用料は市が負担
 - ・2023年度も継続実施し、利用範囲の拡大と実装に向けた検証と利用料等について協議を開始予定

